

# 課題解決に向け意見交換 建協土木委と大分県土木建築部



材の高騰など課題が多  
い。災害の復旧復興を  
はじめとしたインフラ整備  
は建設業の使命だ。地域  
の守り手として信頼され  
るよう、新3Kの環境整  
備に努めていく」とあい  
さつ。

五ノ谷参事監は「発注  
者と受注者は、安全で安  
心な社会資本整備と高い  
利便性を構築するといっ  
同じ方向を向いている。  
忌憚のない意見をお願い  
する」と述べた。

意見交換では、土木委

【大分】(一社)大分  
県建設業協会土木委員会  
(大庭浩司委員長)と大  
分県土木建築部建設政策  
課等は31日、意見交換会  
＝写真＝を大分市のレン  
ブランドホテル大分で開  
催し、要望項目に対し  
て、ともに課題の解決に  
向けた議論を交わした。  
会には、大分県の建設  
政策課から五ノ谷精一参  
事監兼課長と萱嶋仁主  
幹、公共工事入札管理室

の秋月宏昭室長、工事検  
査室の多田耕治室長、道  
路保全課の中村充宏参事  
監兼課長らが、協会から  
大庭委員長をはじめ各支  
部の土木委員のほか土木  
施工管理技士会の企画・  
技術委員が出席した。  
冒頭、大庭委員長は  
「われわれ建設業界を取  
り巻く環境は、担い手の  
確保や働き方改革への対  
応のほか、近年の円安や  
長期に及ぶコロナ禍、資

員から▽円滑な工事着手  
▽設計段階での仮設等の  
現状調査▽生コンクリー  
トのスランプ▽交差点部  
や橋面等日当たり施工量  
が少ない工事▽ICT施  
工の推進▽委託成果品の  
品質向上▽二次製品の施  
工承諾▽設計変更ガイド  
ライン案▽道路および河  
川等、維持委託の経費率  
の改定―の8項目を提案  
した。